

令和5年度 重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業 報告

発表時間：7分
内容：事業の概要、進捗
状況等について



現状・課題

1. 重度知的障がい者に対応可能なグループホーム（GH）に対するニーズ

- 府内入所施設利用者の重度・高齢化が進み、今後さらに**地域移行**を進めるため、また、重度知的障がい者の「**親なき後**を見据えた」**住まいの場**の確保のためにも、**重度知的障がい者の支援ノウハウを持つGHが必要**。
- 地域生活支援拠点の役割の1つに「**専門人材の養成**」があるが、重度の知的障がい者の場合、支援方法が適切でないと自傷・他傷・破壊行為等の行動障がい呈することがある。行動障がいに対応できる人材養成に関しては、これまでの国等の研究成果、少数のノウハウのある事業所の知見も必要とすることから、**市町村単位では困難**。

2. 府内の障がい者向けGHの状況

- GHの事業所数・利用者数とも増加してきているが、非正規職員を多数雇用せざるを得ない状況で、GHごとに支援スキルは千差万別。重度障がい者を受入れている事業所も多くはない。
- 重度障がい者・重度知的障がい者の支援ノウハウを有する事業所は少なく、また、GHに対して助言等をする仕組みもないため、支援方法に行き詰った場合も、どう解決したらいいか苦慮する事業所が多い。

事業の概要

1. 事業目的

重度知的障がい者に対応可能な支援スキルを持つ法人を増やし、重度知的障がい者の地域での生活を支える体制を整備する。

2. 事業期間

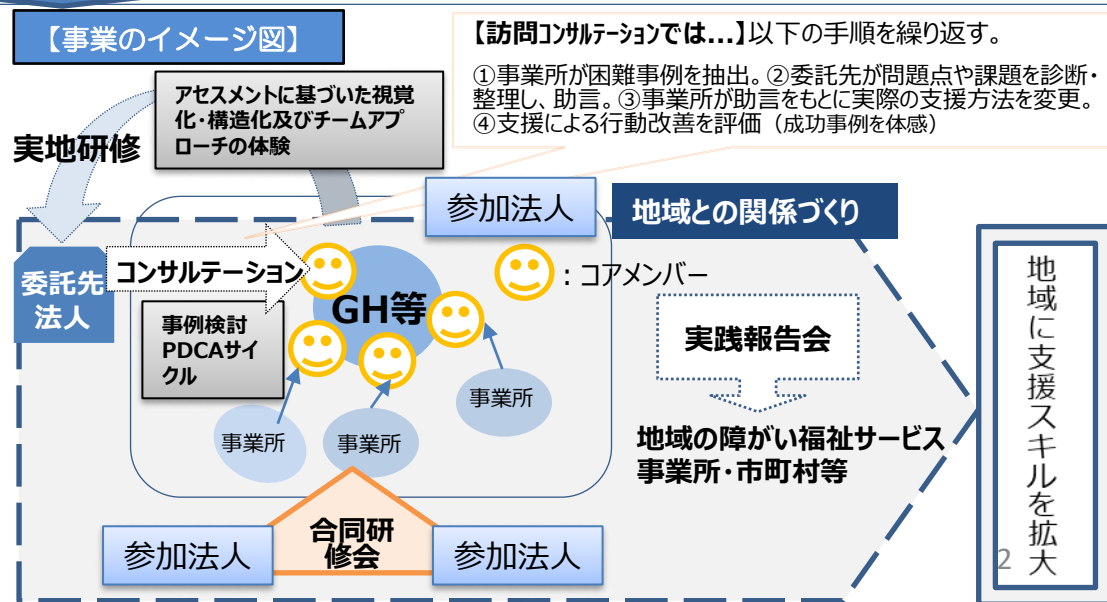
R2年度～R6年度（R2年度はモデル実施）

※1法人3か年

令和4年度 1法人修了
令和5年度 1法人修了（予定）
令和6年度 4法人修了（予定）

3. 事業内容

- ◆先駆的に取り組む法人に委託し、そのノウハウを活用して、重度知的障がい者に対応可能な6法人を養成する。参加法人は公募。
- ◆「**実地研修**」「**コンサルテーション研修**」等により、障がい特性に応じた専門的な支援方法や環境設定、組織マネジメントなど、法人全体で適切な支援を行う上で必要となる知識や技術を具体的に体系的に習得。
- ◆実践報告会の実施により地域に参加法人の取組み等を周知。



<1法人あたり3年間実施>

- 1年目：知識と技術の獲得と実践・・・法人内1事業所で実際に支援に困っている1～2事例をもとに、支援方法を学ぶ。
- 2年目：支援力の確立と定着・・・法人内複数事業所の数事例で実践を繰り返し、適切な支援を定着させ、GH等での支援ノウハウを獲得する。
- 3年目：教える力の獲得と実践・・・委託法人の訪問コンサルに同行し、他法人に対してコンサルテーションできるスキルを培う。

実践を振り返って

事業に参加したコアメンバーや管理者の声（主なものや共通して言われていたことを抜粋）

- ・これまでは、自分の価値観や経験に基づいて支援を行ってきたが、一人ひとりの特性（強みや苦手）を理解して、支援することで利用者さんのしんどさが解消されることがわかった。
- ・他法人の取組を知る機会がなく、これまで自分たちの支援を振り返ることをしていなかったことに気が付いた。
- ・他法人の成功事例を体験でき、取り組む意欲につながった。
- ・支援がうまく行っている法人では、非常勤さんからベテラン職員まで、立場や経験に関係なく、気づいたことなど活発な意見交換ができていた。
- ・実地研修先で、若手からベテランまでどの職員に支援に関する質問をしても、共通した回答が返ってきて、統一した支援が実施できていると感じた。
- ・他の法人と相談し合えるつながりができたのは非常にありがたい。

参加者の声から推察されること

- ・事業参加前は、専門的な研修を受け、実践しようとしても周りの理解が得られなかったり、その支援が正しいかどうかかわからず、意欲をもって継続させることが難しい状況となっていたのではないかな。
- ・また、これまで、他法人と交流する機会が少なく、客観的に自分たちの支援を評価することができなかったため、自分たちの経験や、価値観によった支援になりがちであったのではないかな。

事業を通して見えてきたこと

- ・「よい支援」を実践している外部の専門家から評価・助言をうけながら、客観的に支援の見直しができるため、自信を持ち、安心して支援に取り組むことができる。
- ・管理者や法人の代表が「よい」と思った取り組みは、個人のやる気だけに頼らず、チームで取り組むことができ、法人内で押し進めやすい。
- ・訪問コンサルテーションと併せて実地研修を実施することで、「支援がうまく行く体験を経験できる」、「そこで暮らす利用者がいきいきと生活している姿に触れる」ことで、「よい支援」を体験し、自信をもって支援に取り組むことができる。
- ・同じ方向性をもった同士（法人）を増やすことで、さらに「よい支援」が広がっていく。

令和6年度の取組み

- ・3年目にあたる4法人の事業の継続実施。
（R6年度は、継続実施の4法人について、それぞれの法人が各地域において実践報告会を実施する予定）
- ・支援方法を習得した法人が地域に支援を展開していくことへの府のバックアップについて検討。

施設評価の指標

標準的な支援実施状況表				事業所名：			
	項目	1	2	3	4	5	6
①	アセスメント (障害特性シート)	活用していない	特定利用者の障害特性シート を使ってアセスメント	特定利用者に課題、場面 を設定しての直接観察	特定利用者にフォーマル アセスメントの実施	複数の利用者にアセス メントが実施されている	フォーマル、インフォーマル アセスメントが事業所内で 浸透し活用されている
②	アセスメント (氷山モデル)	活用していない	氷山モデルシートの考え方を 知っている職員がいる	氷山モデルを記入したこと がある	特定利用者に氷山モデル シートを使って支援の仮 説が立てられている	複数の利用者に氷山モ デルシートが活用されて いる	氷山モデルの考え方が事 業所内で浸透し活用されて いる
③	支援手順書	活用していない	特定利用者に活用されている	複数のケースで活用され ている	活用と改定が定期的に実 施されている	複数の利用者に支援手 順書が活用されている	支援手順書を活用し事業 所内で統一した支援が実施 できている
④	記録	活用していない	必要な記録のみ	スカッタープロットが活 用されている	目的に合わせた記録の活 用	複数の記録が活用され ている	事業所内で記録の活用、分 析が浸透している
⑤	物理的構造化	活用していない	特定利用者に衝立など刺激 の調整	活動エリアの設定や視覚 的な指示などのアイデア が活用されている	必要に応じて再構造化が 実施されている	複数の利用者に物理的 構造化が活用されてい る	構造化のアイデアが事業 所内で浸透し活用されてい る
⑥	視覚的スケジュール	活用していない	特定利用者に視覚的スケ ジュールが提示されている	特定の利用者に提示され たスケジュールが自立した 活動につながっている	必要に応じて再構造化が 実施されている	複数の利用者に視覚的 なスケジュール活用さ れている	視覚的なスケジュールが事 業所内で浸透し活用されて いる
⑦	ワークシステム	活用していない	特定利用者にワークシス テムのアイデアが活用されて いる	特定利用者にワークシス テムのアイデアが活用さ れ自立的な活動につな がっている	必要に応じて再構造化が 実施されている	複数の利用者にワーク システムのアイデアが 活用されている	ワークシステムのアイディ アが事業所内で浸透し活用 されている
⑧	チームアプローチ	理念・知識の共有 個別支援計画の推進 職員間のコミュニケーション(会 議) 職員育成 上記項目で具体的な取り組み がない	理念・知識の共有 相談・連絡 職員間のコミュニケーション (会議) 職員育成 上記項目で1つ以上具体的な 取り組みをしている	理念・知識の共有 相談・連絡 職員間のコミュニケーション (会議) 職員育成 上記項目で2つ以上具体 的な取り組みをしている	理念・知識の共有 相談・連絡 職員間のコミュニケーション (会議) 職員育成 上記項目で3つ以上具体 的な取り組みをしている	理念・知識の共有 相談・連絡 職員間のコミュニケーション (会議) 職員育成 上記項目すべてで具体 的な取り組みをしている	利用者支援にチームで取り 組むことができる
		具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み	

アセスメント(障がい特性シート)

アセスメント(氷山モデル)

支援手順書

記録

物理的構造化

視覚的スケジュール

ワークシステム

チームアプローチ

1:実施されていない

2:特定のケースに活用

3:特定ケースについて活用の度合いが大きい

4:再構造化等のプロセスが実施されている

5:複数のケースに対して活用されている

6:事業所内で浸透している

- ・訪問コンサルテーションで検討した事例に対して実施。
- ・年2回（開始時と年度末）

障害者の知的障がい者地域生活支援体制整備事業 対象利用者行動評価

法人名（ ）		事業所名（ ）			対象ご利用者名（ ）					
有無 あれば○	行動	頻度による評価			行動の程度などの特記 事項 （支援前の状況）	支援前評価 点数	支援 中間評価 点数	支援後 評価 点数	支援前と支援後の差異（定量） 支援後の特記事項（定性）	
		0点	1点	2点						
	【表出コミュニケーション】 本人独自の表現方法を用いた意思表示	独自の方法によらず意 思表示できる	時々、独自の方 法でないと意思 表示できないこ とがある	常時独自の方法での意 思表示 意思表示できない						
	【受容のコミュニケーション】 言語以外のコミュニケーション手段を用いた説明の理解	日常生活において言葉 以外の独自の方 法（ジェスチャー、絵カード 等）を用いなくても説明 の理解ができる	時々、独自の方 法でないと説明 の理解ができな いことがある	常に言葉以外の方法で ないと説明理解ができ ない。 言葉以外の方法を用い ても説明の理解ができ ない						
	【動き】 多動または行動停止	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日 回）						
	【不安定な行動】 パニックや不安定な行動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日 回）						
	【自傷】 自分の体を叩いたり傷つけたりすること	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日 回）						
	【他害・破壊】 叩いたり蹴ったり、器物を壊したりなどの行 為	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日 回）						
	【不適切な行為】 他人に突然抱きついたり、断りもなく物を 持ってくる行動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日 回）						
	【大声・奇声】 環境の変化により突発的に通常と違う声 を出すこと	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日 回）						
	【突発的行動】 突然走っていなくなるような突発的な行 動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日 回）						
	【異食】 食べれないものを食べること	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日 回）						
	【過食・多飲水・反すう】 過食、多飲水、反すう等の食べること飲 むことに関する行動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日 回）						
	【確認行動】 気になることなど、何度も同じ確認をする 行動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日 回）						
	【こだわり】 物や人に対する固執、執着が激しい行 動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日 回）						
	【睡眠】 睡眠がとれなくなったり、昼夜逆転などの 睡眠に関する事	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日の睡眠時 間）						
	【排泄に関して】 頻回にトイレに行くなど、排尿、排泄に関 しての不適切な行動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日の睡眠時 間）						
	その他、本人や周囲が困っている行動が ある 【行動のタイトル記入】	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日（1日の睡眠時 間）						
第1回運営委員会で意見をい いただきQOLの視点を盛り込む						0	0	0	5	
						・支援前と支援後の総合的な変化 支援後「出来ることが増えた」「笑顔が増 えた」など ・支援前、中間、支援後の合計点数				

- ・法人が運営する事業所の全職員に対して実施。
(可能な限りでご協力をお願いしております)
- ・年2回（開始時と年度末）
- ・コアメンバーから、コアメンバー以外にどの程度支援が広がっているか確認するために実施。
- ・今年度より、「支援を行う上での満足度」の項目を追加し、職員がいきいき働いているかどうかを確認。

内容	行動	※	程度
個別支援計画	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	個別支援計画を意識して支援したことがない。
		2	個別支援計画の達成を意識して、担当者が主に支援を行っている。
		3	個別支援計画の達成を担当者が意識して行っており、全職員（棟orユニットでも可）に周知している。
		4	個別支援計画の達成を担当者を含めた複数名が意識して実践している。
		5	個別支援計画の達成を全職員*（棟orユニットでも可）が意識して実践している。
		6	個別支援計画を全職員*（棟orユニットでも可）で検討・作成し、意識して実践している。
担当利用者の特性について ※特性＝障害のこと、好きなこと、苦手なこと、嫌いなこと等	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	必要性がない。
		2	理解したいが理解するのが難しい。
		3	なんとなく日々の行動から特性を理解しているが、適切に理解できているかどうか分からない。
		4	日々の行動のアセスメントやデータ等の根拠に基づき理解している。
		5	日々の行動のアセスメントやデータ等の根拠に基づき理解し、支援を組み立てている。
		6	日々の行動のアセスメントやデータ等の根拠に基づき理解し、支援を組み立てチームで共有している。
行動障がいや、自閉症の理解	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	必要性がない。
		2	理解したいが理解するのが難しい。
		3	研修等で学びなんとなく理解した。
		4	研修等で概ね理解している。実践にはもう少し時間がかかる。
		5	研修等で概ね理解し、利用者支援を実践している。
		6	研修等で概ね理解し、チーム全体で利用者支援を実践している。
特性に基づいた環境調整等	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	必要性がない。
		2	環境調整の方法を知らない。
		3	なんとなく理解し、実践している。
		4	本人の特性に基づき環境調整を行っている。
		5	本人の特性に基づき環境調整を行っており、必要に応じ見直し、改善している。
		6	本人の特性に基づき環境調整を行い、必要に応じ見直し改善を行い、マニュアル等を作成している。
自己学習	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	必要性がない。
		2	したいがする余裕や時間がない。
		3	職場から指名される研修に参加している。
		4	職場から指名される研修以外にも興味がある研修案内等があれば自ら希望し参加している。
		5	職場から指名される研修も含め、学んできた業務に必要な研修を他の職員に伝達している。
		6	研修（内部研修含む）で学んだことを、職場内などで講師となり研修を実施し伝達している。
職員間のコミュニケーション（相談等）	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	相談することがない。
		2	相談したいが、多忙等の理由で相談することが難しい。
		3	困ったことなどを仲の良い職員と相談し解決している。
		4	困ったことなどを、全職員*（棟、ユニット）で4週間に1回程度は会議等で相談できる環境がある。
		5	困ったことなどを、会議等で相談でき、さらにその都度チームに相談できる環境がある。
		6	困ったことなどを、会議等でその都度チームに相談できる環境があり、他事業所とも共有している。
法人の理念やビジョンについて	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	理念やビジョンがあるかどうかもしらない。
		2	理念やビジョンを覚えてもらったが、覚えていない。
		3	理念やビジョンがあるということを知っているけど、知っている程度。
		4	理念やビジョンを職員会議等で定期的に確認し知っている。
		5	理念やビジョンに基づいて、支援を実践している。意識して実践している。
		6	理念やビジョンについて、意識して実践し、誰にでも説明できる。
支援を行う上での満足度	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	支援の負担感は大きく、かなり悩んで疲れている。
		2	支援の負担感は大きく、悩みも多いが、何とか頑張りたいと思っている。
		3	支援の負担感は軽減してきており、前向きになってきている。
		4	支援が楽しく感じられるようになってきている。
		5	支援が楽しく感じている。もっと様々なことを学びたい。
		6	支援が楽しい。現在のチームで様々なことを学び、周囲に伝えていきたい。

※全職員＝宿直などの職員、休日職員等にも書面等でわかりやすく共有しているものも含む。